



メディカル チェック



内科・泌尿器科 のはなし

早期発見・早期治療！
泌尿器科の腫瘍の話その79

癌の進行度とその生存率の話、今回は4回目です。

これまで、全ての癌をまとめた5・10年生存率は67・9、56・3%で、10年前より約5ポイント改善したこと、発見時の進行度が早期であるほど

いう原則に変わりはないですから、今回は『癌を早期発見するにはどうすべきか？』を考えてみましょう。

私が行っている講演会で、よく皆様から『早期癌を疑う症状は、どのようなものがありますか？』と質問を頂きます。これまでのお話のとおり、『早期癌』は『局限癌・各臓器の内部のみ』に

存在するもの』です。早期癌は多くの場合、無症状です。ですから『予後の良い早期癌で発見しましょう！』『無

症状の癌を発見しましょう！』ということになります。

最近では私たち北彩都病院をはじめ、様々な医療機関で手軽に受けられるようになり、癌だけでなく様々な疾患を見つけることも出来ますので、

『早期癌』は『局限癌・各臓器の内部のみ』に存在するもの』です。早期癌は多くの場合、無症状です。ですから『予後の良い早期癌で発見しましょう！』『無症状の癌を発見しましょう！』ということになります。

種腫瘍マーカー検査や、最近登場した『癌リスク検査』、②『内視鏡検査』…消化管の癌発見に非常に有用な消化管内視鏡検査や、気管支鏡検査、尿路内視鏡検査、③『画像検査』…肺、肝、胆嚢、膵、腎、膀胱、前立腺、子宮、卵巣など、消化器以外の癌を発見するための、超音波、CT、MRI、PET検査、これらが必要となります。

各癌に対する『健診』も行われておりますが、多数の臓器を効率良く検査出来る『ドック検査』が最も有効です。

最近では私たち北彩都病院をはじめ、様々な医療機関で手軽に受けられるようになり、癌だけでなく様々な疾患を見つけることも出来ますので、

春や秋とか誕生日頃とか、年一回、時期を決めて、自ら進んで受診されることを、お奨めいたします！

緊急告知！2015年から毎年実施しています『イオンシネマ市民講演会』、6月下旬の日曜日の開催に向けて準備を進めているのですが、コロナウイルス感染流行の状況から、開催するか延期するか、現在検討中です。

開催決定の際には、フリーペーパーのライナー紙上と、当院ホームページで御案内いたします！

癌の進行度と、その生存率についての話④

北彩都病院 泌尿器科
癌診断・治療センター長

徳光 正行
医学博士、日本泌尿器科学会専門指導医、日本がん治療認定医

北彩都病院 宮下通9
泌尿器科 永山227

永山腎泌尿器科 永山227
クリニック TEL:090-4611-0000